

大人用



伝道地便り

2020年 第1期 中央ヨーロッパ支部

第1話「奇跡の教会」	ブルガリア
第2話「安息日への挑戦」	ドイツ
第3話「無神論者の宣伝者だった」	ドイツ
第4話「バスルームでの祈り」	スペイン
第5話「10年間見続けた同じ夢」	スペイン
第6話「 로마人の村が安息日を見出した」	スロバキア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 奇跡の教会

ブルガリア



ストヤン・ペッコブ 48歳

ストヤン・ペッコブ牧師は、ブルガリアのソフィアでの新しい教会建設について2年間祈っていました。

ストヤンが祈っている間、アメリカの教会のリーダーたちが、2020年第1期の13回献金の一部を彼の教会建設のために用いると決めていたとは、彼は知る由もありませんでした。神様がストヤンの祈りに答えて下さったという事は、13回献金プロジェクトが承認されるまで分からなかったのです。それでは詳しく説明しましょう。

ストヤンがソフィア・ウェスト・セブンスデー・アドベンチスト教会に赴任したのは2015年の事でした。当時この教会では、他の福音派の教会の一部を使って集会が持たれていました。

その教会は街の中心部にあり立地は最高だったのですが、ストヤンは問題に気が付きました。教会が死んでいたのです。人々は土曜日の礼拝には集まりますが、それが全てで、料理教室も、子どもの集会も、祈祷会も何もありませんでした。

ストヤンは福音派の教会に、平日にも建物を使わせてほしいと頼みましたが、説明もなく断られ

てしまいました。そこで彼は、新しい教会の場所を探すことを決心しました。近所を歩きまわり、くまなく探しましたが、なかなかみつかりません。彼は祈りの組を始めて、神様にお委ねすることになりました。

それから月日は経ち、2017年3月、ストヤンは教会を探すことを辞め、その代わりに教会でイースター（復活祭）のコンサートをすることに決めました。

彼の教会にコワイヤーはなく、コンサートができる場所也没有。ストヤンは教会の青年たちに、自分たちでコンサートを企画して歌うよう頼みました。青年たちは積極的にコワイヤーを作り、ストヤンは50席あるホールをコンサートのために借りました。

ところがコンサートの前日、ホールの持ち主が、他の人にホールを貸すことにしたと言い出したのです。ストヤンは街を歩きながら祈りました。ショッピングセンターに通りがかかると、沢山の店舗が貸店舗になっていました。貸店舗のオーナーに話をしようか、考えましたが、資金も少なく、宗教団体に貸してくれる人はあまりいません。それでもストヤンはオーナーに電話をしてみました。すると驚いたことに、そこの空店舗をコンサートのために借りることができたのです。

コンサートは大成功でした。

コンサートの後、教会員たちが片づけをしていると、オーナーが立ち寄り、こう言いました。「もっとうるさい音や叫び声を予想していたのだけど、君たちはマナーが良くて良かったよ」

このオーナーは、平日に集会をする場所を探していることを聞くと、壁を取り払って2つの店舗を1つの集会室にして貸し出すことを提案してくれました。また、他の階にあるもう1つの店舗を、地域の子どものための集会をする場所として提供してくれたのです。そして街の教会を借りる

よりも安く、この契約を交わすことができました。

ウェスト・ソフィア教会がショッピングセンターに移転した後、教会出席者は急激に増え、教会のアウトリーチプログラムも急成長を遂げました。ショッピングセンターにも変化が訪れました。新しいテナントが入り、空っぽだったショッピングセンターに活気が戻りました。オーナーは言いました。「君たちが幸運をもたらしてくれたお蔭で沢山の人が借りてくれるようになったよ」

教会員が健康講座、料理教室、そして子どものプログラムなどを始め、新しい場所へ移転後、最初の1年で5人のバプテスマがありました。

「2年前からは想像もできないことです」とストヤンは言います。「以前私は教会へ行き、お話をして、家に帰るだけでした。神様が扉を開いて下さったのです」

問題は、やはり新しい教会が必要だということでした。賃貸にかかる費用は安くありません。また、教会員数が120人まで急激に増え、更に教会が成長するためには今の集会室ではあと少しのスペースしかなかったのです。

その時でした。ブルガリアの教会リーダーたちからストヤンに連絡が入りました。2020年第1期の13回献金の対象として彼の教会が選ばれたと言うのです。

ストヤンは感激しました！ 思い返すと、以前新しい教会を探すのを辞め、福音の宣教に専念し始めてから、物事が良い方向に進んで行ったのは、偶然ではありませんでした。

「イースターのコンサートを計画した時、神様が必要な場所を私たちに与えて下さいました。その瞬間、神様がいつの日か私たちに教会を与えて下さると私は確信しました。福音宣教に専念して前進することが大切なのです」

今期の13回献金の一部は、ブルガリアの首都ソフィアにある、このソフィア・ウェスト・セブンスデー・アドベンチスト教会の新しい教会建築のために用いられます。皆様の献金を感謝いたします。

2. 安息日への挑戦

ドイツ



ヴィンチェンゾ・ギャリナ 29 歳

ドイツのIT専門家ヴィンチェンゾ・ギャリナは、一体何が起きているのだろうと頭を抱えていました。

アメリカ同時多発テロ、ヨーロッパの金融低迷、クリミアの分離独立、難民危機……このような世界的危機が次々と起こっていたからです。

何かがおかしい……ヴィンチェンゾはこの世界が終わりに近づいていると感じていました。非倫理的とも見られる政治家の判断に理解ができず、ユーチューブで答えを探そうとしました。そして幼い頃通っていた教会に戻りました。

ヴィンチェンゾは通常の日曜の礼拝に出席するにとどまらず、土曜日や水曜日の集会にも参加しました。教会のリーダーたちは、宗教熱心な彼に感心して神父になるよう説得しましたが、ヴィンチェンゾは断りました。彼はただ、世界で何故このような出来事が起きているのか、その答えを見つけ、^{きよ}聖い生活を送りたかったのです。

答えを探しながら、彼は3つのことを大事にしました。まず1つは、「真実」に従うということ。それが自分をどこに導こうとも、真実に従うこと。

2つめは、人に対して、特に自分に正直であること。そして3つめは、自分が語る通りに行動することでした。

聖書を読んでも内容が理解できず、彼は苛立ちました。ある夜、「神様どうか、聖書を説明してくれる誰かを送ってください。あなたの御言葉を理解出来ない無知な私をどうかお許し下さい」と、必死に祈りました。

その後すぐ、ユーチューブを見ていると、セブンスデー・アドベンチストの伝道者の説教が目にとまりました。そして聞き進んでいくと、彼の頭の中にあった疑問が解けていったのです。その伝道者は、語ることに全てを聖書の御言葉によって裏付けしていました。それから彼は1日に5つの説教をユーチューブで視聴し、彼の頭は渇いたスポンジのように新しい知識を吸収していきました。

第7日目¹が聖書的な安息日であると確信を得た彼は、毎週土曜日、自分の住むケルンという街にあるアドベンチスト教会に出席するようになりました。創造主である神様を礼拝し、神の律法を守ることは不可能である、というサタンの言い分が間違っている事を証明したかったのです。そして、それが何処へ自分を導こうとも、真実に従い、正直でありたいと思いました。

ヴィンチェンゾは両親と住んでいた為、信仰生活をする上で難しい面がありました。彼の両親は、食事の前に祈ることもなく、安息日でもテレビは付けたままでした。そのため安息日を守ることの大切さに対して疑念が心に入ってきました。彼は、マルコ2章27節のイエス様の言葉を思い出しました。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」また、ローマ6章14節にある、「あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいます」というパウロの言葉を思い出し、安息日を守るのをやめてしまったのです。

ある金曜日、サンセットを過ぎた頃ヴィンチェ

ンゾがコンピューターに向かって仕事をしていると、「あなたは私の戒めの一つを守っていないことを分かっているはずだ」という声がしました。

ヴィンチェンゾは、彼自身の決まりである、人に対して、また自分に対して正直でいることを思い出し、「そうです。僕は安息日を守っていません」と言いました。そして、「でもそれはそんなに重要なことでしょうか？」と言って仕事に戻りました。

するとまた、「律法を守っていないことをあなたは分かっている。あなたがしている事は正しくない」という声がするのです。

ヴィンチェンゾは、深緑色の自分の聖書を机から手に取って言いました。「そんなにこの日を守ることが大切ですか？ 安息日は人のために定められたとイエス様は言いませんでしたか？ 私たちは律法の下から解放されたのではないのですか？」

それでもその声は止まりませんでした。

ついにヴィンチェンゾは祈り求めました。聖書を手にひざまずき、明確な答えを神様に求めたのです。

「あなたは私に安息日を守って欲しいのですか？ この日はあなたにとって大切なのですか？ この決断をするためには、私には助けが必要です」と祈りました。

彼は、神様が答えられる機会を作ろうと考えました。彼の手にある聖書に視線を落とすと、聖書を適当に開いて、そこで神様が与える答えを何でも受け入れようと決めました。そしてヴィンチェンゾは目を閉じ、聖書を開きました。聖書を見てイザヤ書 58 章 13、14 節を読みました。「安息日に歩き回ることをやめ、わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日と呼び、これを尊び、旅をするのをやめ、したいことをし続けず、取引を慎むなら、そのとき、あなたは主を喜びとする」

ヴィンチェンゾは泣きました。このような形で答えを与えられ、働くことなどできませんでした。彼はコンピューターを閉じ、聖書を開いたのです。

その後、安息日を守ることにについてヴィンチェンゾが疑いを抱くことはありませんでした。安息

日の朝、教会に戻り、現在 29 歳の彼は、それからずっと教会に通い続けています。

今期の 13 回献金の一部は、ドイツのダルムシュタットにあるマリエンホーヘ・アカデミーの補修工事費用として用いられます。皆様の献金感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・ Vincenzo は、ヴィンチェンゾと発音します。
- ・ ヴィンチェンゾをユーチューブで視聴できます：bit.ly/Vincenzo-Gallina.
- ・ 画像のダウンロードはこちら：
フェイスブック (bit.ly/fb-mq) または
ADAMS データバンク (bit.ly/Challenging-the-Sabbath)
- ・ 13 回献金プロジェクトの画像ダウンロード：
bit.ly/eud-2020-projects.

宣教メモ

- ・ 安息日を守る人たち、またキリストの再臨を待つ小さな集団は、1844 年という早い段階からドイツに存在しました。18 世紀のニュルンベルグ聖書の生徒であるテンハードの書物によって、聖書の安息日を受け入れたクリスチャンたちがバイエルン地方にいたのです。1902 年、ヴュルテンベルクで 7 日目の安息日を 50 年間以上守っていたという 2 人の男性が、バプテスマを受け、セブンスデー・アドベンチストとなりました。

3. 無神論者の宣伝者だった

ドイツ



ヤン・ホーグ 30 歳

ヤン・ホーグは、他の事が何も面白いと思えないほど、自然環境を守る事に没頭していました。18歳の高校生だった彼は、地球環境問題に取り組むためにドイツの政党に所属しました。大学では、友達を誘って環境問題に関する映画を見ました。また、食べ物、旅行、洗剤、石鹸などに至るまで、出来るだけ環境に配慮したものを選んで生活していました。友人たちと共同で借りていたアパートでは、相手の迷惑も顧みずに電気を消して回るほどでした。

自然環境を守ることが彼の打ち込むものであり、彼はイエス様を知らない宣伝者だったのです。

ヤンは、国際ビジネス学科の生徒として、環境に配慮している銀行からインターン内定を確保していました。そして必須であった海外での研修を、ノルウェーの首都オスロで行うことに決めました。オスロで安価な滞在先を決めるのは困難でした。ふと、2年前に自給自足の方法を学ぶためノルウェーの農園でひと夏を過ごした際、出会った家族のことを思い出しました。彼はその家族にメール

を送り、助けを求めました。そして数日後、オスロに場所が見つかったとの返信がありました。

ヤンはオスロに到着してすぐ、セブンスデー・アドベンチストたちに囲まれている事に気が付きました。彼の新しいルームメイトのデイビッド・ミケルソンは、アドベンチストの学生たちに教会が貸している家の小さな部屋に住んでいました。ヤンは、世界で最も無神論者が多い、旧東ドイツ出身の頑固な無神論者でした。東ドイツの人口の60パーセント以上が無神論者とされていたのです。

場所を提供してくれたことに感謝しつつも、ヤンは、「彼らは自分を改宗させようとしてくるだろうが、そうはさせない。僕は何を信じれば良いか自分で分かっている」と思っていました。

3か月の間、何も起こりませんでした。ヤンはアドベンチストの生徒たちが好きでしたし、アルコールに関する規則を破った時でも、彼らはヤンに親切に接してくれました。彼らはヤンの必要を満たすことで、ヤンの信頼を得ていたのです。

ある日、50人のアドベンチストの青年たちと共に、南ノルウェーに船旅で行くことになりました。ヤンは青年たちと楽しい時を過ごしなが、彼らが環境保護について興味を示してくれた事を嬉しく思っていました。

すると青年のリーダーの一人、ヨアキム・ヨートランドが、ヤンに聖書の勉強をしないかと誘ってきました。ヤンは興味がありませんでしたが、断るとヨアキムに申し訳ないと思い、良い言い訳はないかと考えました。そして、「今日は時間が無いから、明日なら大丈夫かもしれない」と言いました。

次の日の朝、ヨアキムが、「昨日の話覚えているかい？ 聖書の勉強をしよう」と言ってきました。ヤンは、また言い訳を考え、「聖書の勉強はできな

いよ。だって聖書を持っていないからね」と答えました。後に、彼はこれを最高に馬鹿げた言い訳だったと言いました。何故なら彼は聖書を持っている人たちに囲まれていたのです。ほどなくして、彼も聖書を手にしていました。

人が聖書を信じるようになるためには、まず聖書が神様の言葉であることを信じられなければなりません。ヤンは神様を信じていませんでした。ヨアキムは聖書のダニエル書2章を開きました。ヤンは、バビロニア帝国の繁栄と衰退、メドペルシャ、ギリシャ、そしてローマについて書かれたダニエル書の預言を聞き、驚きを隠せませんでした。像の鉄と陶土の足に示された様に、今ヨーロッパが分離していることを彼は理解したのです。

そして、聖書には人知を超えた情報が示されていると確信し、より深く勉強するために聖書を買いました。オスロではアドベンチストの友人が、罪の始まり、何故神がサタンを滅ぼさなかったか、そして聖書的根拠により、何故進化論よりも創造論に信憑性があると言えるのか、などの質問に対し、聖書の回答を見つけるのを助けてくれました。そして遂に、彼の心を神様に捧げる決心をする日がやってきたのです。

「僕はクリスチャンには絶対になりたくありませんでした。しかしその思いを覆すほどの証拠を見せられてしまったのです」と彼は言います。「神様は必ずおられます。そして神様が、ご自身が語られる通りの神様なら、神様に従うという選択以外、考えられません。一体誰が、負けが確定しているチームに入りたいと考えるでしょう。それは馬鹿げています。僕は勝利のチームに入りたかったのです」

現在ヤンは30歳になり、オーストリアのボーゲンホーフエン神学科にて牧師になるための学びをしています。卒業後は、東ドイツにいる多くの無神論者や、環境保護の活動家の人々に福音を伝えていきたいと願っています。「僕は特に環境保護活動に携わる人々に伝道したいと思っています。彼らは自分たちの力で何とか世界を救いたいと思っています」とヤンは言います。「彼らはイエス様を知らない宣伝者なのです。彼らの仕事は永遠の

命に繋がりません。彼らがもしその計画にイエス様をお招きさえすれば、彼らの努力は正しい方向へ導かれるでしょう」

今期の13回献金の一部は、ドイツのダルムシュタットにあるマリエンホーヘ・アカデミーの補修工事費用として用いられます。皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・Jan は、ヤンと発音します。
- ・ヤンをユーチューブで視聴できます：

bit.ly/Jan-Haugg.

- ・画像のダウンロードはこちら：

フェイスブック (bit.ly/fb-mq) または
ADAMS データバンク (bit.ly/Atheist-Missionary)

- ・13回献金プロジェクトの画像ダウンロード：

bit.ly/eud-2020-projects. お話を読む日（このお話は11月9日）の6日前、日曜日にアップされます。

- ・高画質の写真は、ADAMS データバンクからダウンロードできます。 [Bit.ly/Bus-Preacher](https://bit.ly/Bus-Preacher)

- ・13回献金プロジェクトの高画質な写真をADAMS からダウンロードできます。 bit.ly/ECD-projects-2019

豆知識

- ・ドイツは *das land de dichter und denker*, 「詩人と思想家の国」で知られています。作曲家のバッハ、ベートーベン、ヘンデル、シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、ワグナー、シュトラウスは全てドイツ人でした。そして世界の最も偉大な哲学者たちと言われるカント、ヘーゲル、ショーペンハウアー、ニーチェ、ハイデッガーなどもドイツ人です。ドイツの作家、ゲーテ、シラー、ホフマン、レマルクも有名です。有名な芸術家では、ホルバイン、デューラー、フレードリヒ、クレーなどが挙げられます。

4. バスルームでの祈り

スペイン



ダンテ・マービン・ハーマン 36歳

ダンテ・マービン・ハーマンにとって、スペインにあるセブンスデー・アドベンチストカレッジでの最初の1年は、厳しい年でした。1年分の学費である約 5000 ユーロを支払うために、彼は持っていた最後の貯金を使い果たしてしまいました。授業の合間に働いて稼いだ 5000 ユーロ（約 600 万円）は、妻と 2 人の幼い子どもを養うために充てました。

そして故郷から遠く離れたこの土地で、2年目の学費を支払うために文書伝道者として働く長い夏がやって来たのです。

ダンテにとって、大変な仕事をするのは苦ではなかったのですが、本を売るためにサグント・アドベンチスト・カレッジに入学した訳ではありません。彼はこの夏、様々な教会を回り、タトゥーだらけのドイツ人である自分が、カナリア諸島でのドラッグにまみれた生活からどのように抜け出し、アドベンチストになったかを伝えたいのです。

ダンテは神様に自分の経済状況を相談する必要があると感じました。彼は、静かで1人になれる自分の一番好きな場所であるアパートのバスルームに入り、鍵をかけました。そして膝まずき、心の内を話し始めました。

「お父さん、最初の年が終わりました。クラスでは最高の成績をもらい、あなたが私をここに遣わしたことを感じることができました」

ダンテは、個人的な祈りの中ではいつも神様のことを「お父さん」と呼んでいました。

「お父さん、私はあなたが何人かの生徒に奨学金を与えていることを知っています」

「どうか私を助けて下さい。お金を稼ぐという目的で文書伝道者として働きたくありません。私はイエス様の事を伝えたいのです。私は自由に伝道がしたいのです。自分の最後の貯金を使ってしまい、もうお金がありません。どうか助けて下さい」

ダンテが一瞬止まると、静かで穏やかな声が、彼に答えるのを感じました。

「どのくらい必要なのですか？」

「そうですね……」ダンテは言いました。「あと5年大学に行く必要があります、1年に 10,000 ユーロかかるので、50,000 ユーロが必要です」

「分かりました」とその声は言いました。「あなたは私がそれを与えることができると信じますか？」

「私が信じられないという事をあなたはご存知です」とダンテは答えました。「しかし私が信じられるようにあなたが助けて下さることを感謝します。そして私に 50,000 ユーロを与えて下さることを感謝します」

10 分後、ダンテは 50,000 ユーロを受け取ったのでした。

祈りの後、ダンテはバスルームを後にし、その時ダンテの所に来ていた母親がいるゲストルームに行きました。

「やあ」と部屋に入ると、母親は顔面蒼白でベッドに座り、片手には携帯電話が握られていました。「何かあったの？」ダンテは心配になり母親に聞きました。

「素晴らしい事が起きてしまったの」と彼女は

言いました。

「一体何のこと？」と彼が聞くと、

「10 年以上も売れていないドイツにある私の家の事覚えているわよね？」と母親は話し始めました。「それがたった今、欲しいという人からメッセージが来て、私の提示している額よりも 50,000 ユーロも多い値段で買いたいというの」

ダンテは戸惑いました。「それ、僕が祈っていたんだ。僕のお金だよ」などと言う訳にはいきません。

「待って」声に出して言いました。「ちょっと待っていてね。バスルームに行かなきゃいけないから」バスルームのドアに鍵を閉め、膝まずきました。

「お父さん、もし私が 100,000 ユーロを頼んでいたら、その額を与えてくれたのですか？」と聞きました。

すると「ダンテ……」と声がして、「あなたが 50,000 ユーロと頼んだので、私は 50,000 ユーロをあなたに与えたのです」と言いました。

「そうです。けどもし私が 100,000 ユーロを頼んでいたら、その額を与えてくれたのですか？」

「はい。100,000 ユーロをあなたに与えていたでしょう。しかしあなたは 50,000 ユーロを頼んだので、私は 50,000 ユーロを与えました」

「気が変わった、というのは駄目でしょうか？」

「それはできません。」とその声は言いました。

「あなたは大きく考えるということを学ばなければなりません。今のあなたは考えが小さく、一時の事しか考えていませんが、私はあなたに多くのものを与えたいのです。私に信頼し、あなたに必要なものは私が与えるということを信じて欲しいのです」

「分かりました」ダンテは言いました。「でも誰がこのお金を私に与えるよう母に伝えるのですか？」

「私にできるということをあなたは信じますか？」

「はい、信じます。信じます！」ダンテは宣言しました。

彼が母親のいるゲストルームに戻ると、彼女はまだベッドに座っていました。彼が部屋に入ってくるなり彼女は言いました。「ダンテ、話があるのだけど。この余分なお金はあなたにあげるのがベ

ストだと思うから、学費を払うのに使ってちょうだいね」

36 歳のダンテは、神様に信頼し服従して歩む人々を神様は必ず導いて下さると信じつつ、2 年目の学びを終えようとしています。

「神様が私の祈りに答えて下さった時、神様と歩むというのは信仰を持って歩むことなのだということが分かりました」とダンテは言います。「神様はこれからあなたに起こる全ての事を教える必要はありません。ただ私に信頼しなさい、と神様は仰るのです」

今期の 13 回献金の一部は、ダンテのような学生が神様に仕える学びができる様、サグント・アドベンチスト・カレッジのキャンパスに新しい神学科の建物を建てる費用として用いられます

〈お話のヒント〉

・ダンテをユーチューブで視聴できます：

bit.ly/Dante-Herrmann.

・画像のダウンロードはこちら：

フェイスブック (bit.ly/fb-mq) または

ADAMS データバンク (bit.ly/Dante-photos)

・13 回献金プロジェクトの画像ダウンロード：

bit.ly/eud-2020-projects。

宣教メモ

- ・1902 年にラテン教団が設立された時、スペインもその一部として割り当てられました。1903 年に BG ウィルキンソン、ジーン・ヴユミー、そしてジュールズ・ロバートが、特に大きな都市であるバルセロナやマドリッドでの伝道の可能性や見通しを調査、評価するために、スペインに送られました。ジュールズ・ロバートは帰国の際、こう書いています。「私達のスペイン4週間の滞在後、現在の状況に関わらず、神様は伝道のために道を開かれており、この国に関して良い報告しかありません」（「Messenger de la prophetie」【1903】より）

5. 10年間見続けた同じ夢

スペイン



ローレンティウ・ステファン・ドルガ 35歳

ルーマニアの首都ブカレストの近くにある小学校に、セブンスデー・アドベンチストの子どもはたった3人しかいませんでした。

その3人全員が、ローレンティウ・ステファン・ドルガと同じ8年生だったので、彼らはすぐ教会に行こうと誘ってきました。ローレンティウはイエス様が大好きになり、バプテスマを受けました。そしていつの日か牧師になりたいという思いが彼の中に芽生えました。ブカレストにあるアドベンチストの学校は、生徒の定員が20名と少なく、試験で良い点を取らなければ入学することはできませんでした。入学試験の日、ローレンティウは教室に入り、大きな机を前に席に着きました。目の前に置かれた問題用紙に視線を落とし、試験を受けました。結果は21番。「いいんだ。また来年挑戦するよ」と彼は両親に言いました。

ところがその年、彼は霊的に無関心になっていきました。入学試験の時期がまたやってきて、去年と同じ教室に入りました。同じ大きな机を前に席に着き、問題用紙に目をやりました。その時、

何かが間違っていると感じたのです。神様から離れた自分の生活を思い、頭の中が真っ白になってしまったのです。彼は突然立ち上がると、教室から出て行きました。

何年か経ち、ローレンティウはスペインに移り住み、建設作業員になりました。結婚もしましたが、神様からはより一層離れた生活をしていました。しかし、23歳の時、スペインで働いているアドベンチストの伯父に会って、神様に初めて出会った時の気持ちや、牧師になりたいという思いを思い出したのです。そして彼と彼の妻は共にバプテスマを受ける決心をしました。

大切な日を前に、ローレンティウは新しい人生をどのように計画しようかと考え始めました。彼は祈りました。「神様、私に用意されているあなたのご計画は何ですか？」

次の日、彼はまた祈りました。「神様、私に用意されているあなたのご計画は何ですか？」

バプテスマから2日後の夜、ローレンティウは夢を見ました。夢の中で彼は教室に入り、大きな机を前に席に着き、目の前にある用紙に目をやります。すると彼は過去1年も勉強を全くしていない数学のテストだという事に気が付き、恐怖を覚えます。そして頭が真っ白になり、恐怖の次はパニックになり、心臓の鼓動が激しくなりました。ここでローレンティウは目を覚ましました。午前3時でした。彼は自分に言い聞かせるように、「ただの夢だ」と言いました。

再び眠りにつくと、彼は2つめの夢を見ました。今度は、マドリッドの教会の講壇に立ち、彼は笑顔で話をしています。人々は興味深く彼の話を聞いています。彼の心は平安で満たされ、神様の臨在を感じました。

朝になると、ローレンティウは夢の事は忘れていました。そしてその夜いつものように「神様、

私に用意されているあなたのご計画は何ですか？」と祈って眠りました。すると彼は夢の中で再び教室に入り、大きな机を前に席に着きました。視線を落とすと、今度はルーマニア語の国語のテストでした。1年も勉強をしていなかったもので、彼の頭の中は真っ白になり、パニックに陥りました。しかしその後すぐ、彼は違う机の席に座っていました。今度は自分の話を興味深く聞いている人たちに、笑顔で話しています。彼は喜びに満ち溢れ、神様の臨在を感じていました。

似たような夢がほぼ毎晩続きました。教室はいつも同じで、テストの種類は様々でした。テストの準備が出来ているということはなく、いつも惨めな思いをします。そして場面は教会か、違う机、または聴衆へと変わり、そこで彼は何かを教えていて、神様の臨在を感じるのです。

3か月同じ夢を見続けた後、ローレンティウは神様が彼に牧師になるように言っているのではないかと考えました。「しかしどのように？」彼は神様に問いました。「仕事は辞められないですし、支えなければならない家族もいるのです。」

それでも夢は毎晩やってきました。1年が過ぎ、2年、3年、4年が過ぎました。彼は両親と親しい友人数名に夢の話をしましたが、彼らは皆潜在意識が働いているだけだと片付けました。

最終的には彼はその夢に慣れてしまいました。眠りながら最初の惨めな場面が終わるのを待ち、その次の良い場面を楽しみました。そして毎晩「神様、私に用意されているあなたのご計画は何ですか？」と祈り続けました。

10年後、ローレンティウは妻にその夢のことを話しました。ある日の夕方、ローレンティウと彼の妻は250人程が集まる青年大会に参加していました。その時の説教者は、まるで彼の考えていることを読んでいたかのようでした。頭の中で牧師になる事について反対して疑問を呈する度に、その説教者は講壇から答えを返してくるのです。ローレンティウの妻が彼を肘で突ついてきて言いました。「あなた、神学科に行かないといけないわ。」

3か月後、ローレンティウと妻、そして9歳の息子はマドリッドから東に235マイル(380キロ)

の所にある、サグント・アドベンチスト・カレッジに引っ越しました。その日を境に、その夢を見なくなったのです。

ローレンティウは現在神学科の2年目の学びに打ち込んでいます。「私の取る一つ一つのクラス、そして教授たちとの一瞬一瞬が、あの夢の最後の場面なのです」と彼は言います。「夢の最初の場面をまた見たいとは思いません。今は最後の場面が私の日々の現実となりました」

今期の13回献金の一部は、ローレンティウが学んでいるサグント・アドベンチスト・カレッジの神学科に必要な建物の建設費用として用いられます。皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- Laurentiu はローレンティウと発音します。
- 『子ども用伝道地便り』で、ローレンティウの10歳の息子についてのストーリーを読むことができます。
- ローレンティウをユーチューブで視聴できます：bit.ly/Laurentiu-Druga。
- 画像のダウンロードはこちら：
フェイスブック (bit.ly/fb-mq) または
ADAMS データバンク(bit.ly/Dante-photos)
- 13回献金プロジェクトの画像ダウンロード：
bit.ly/eud-2020-projects。

豆知識

- 世界で最初のホッチキスは、18世紀、フランス国王ルイ15世のために、スペインのバスク地方で作られ、全てのホッチキスには王室の紋章が彫られていました。

6. ロマ人の村が安息日を見出した

スロバキア



ピーター・ミジガー 44歳

スロバキアに住む 2000 人のロマ人は、教会に行ったことも聖書を読んだこともありませんでしたが、自分たちのことをクリスチャンだと考えていました。

1993 年のスロバキアの独立後、様々な宣教師たちがラクシー居留地に来るようになりました。最初に来た宣教師の夫婦は毎週日曜日、村の大通りでお説教をしていました。人々はお話を聞きに集まってくるのですが、聖書を読んだことが無かったため、お話を理解することができませんでした。

1 人の村人ピーター・ミジガーは、お説教を聞くことよりも、自分のバンドで演奏することに興味があり、結婚式やお葬式などでベースを演奏していました。彼の弟パボルを含むバンドのメンバーたちは、バンドの稼ぎをいつもお酒に費やしていました。ピーターはバンドの運転手も担っていたため、演奏時にお酒を飲む事は決してありませんでした。

しらふで演奏をしていると、聴衆は必ず 2 つのグループで構成されていることに気が付きました。お金持ちでマナーの良い知的なグループと、それとは対照的に貧しくてマナーの悪いグループです。他のミュージシャンたちはお酒に酔っていたため気が付いていない様でした。

ピーターはコンサートの間、聴衆を興味深く観察していました。その 2 つのグループの違いが、お酒の酔いと共に消えていくのです。人々はお酒に酔うと、お金持ちも腰まで服を脱ぎ、貧しい人たちと同じように振る舞っていました。イベント——お葬式でさえ——はいつも決まって、最後は酔っ払いたちの喧嘩で終わっていました。

チェコ共和国での演奏中、聴衆が酒乱状態でピーターや他のミュージシャンに襲いかかり、ピーターと彼の弟はもう演奏をやめることにしました。パボルは言いました。「もうこの世の音楽を演奏するのはやめる。神様に向かって演奏したいんだ」

パボルは宣教師の訪問者たちによるクリスチャン音楽を聞き始めていたのです。じきにピーター、パボル、そして他のバンドのメンバーたちもクリスチャン音楽をパボルの家で演奏するようになりました。ある時、演奏していると、テーブルに聖書が置いてあることにピーターは気付きました。

「これはどんな本なんだい？」手に取りながら聞きました。パボルは取り返ししながら言いました。「ここに置いて。兄さんのためのものではないよ。」

パボルは聖書を勉強していたので、誰にも貸したくなかったのです。

しかしパボルと他のメンバーが演奏中、ピーターは聖書を手に取り、家を出て行きました。1 か月間、自宅で聖書を開き、黙示録、そして福音書

を読みました。しばらく経ったあと弟に、聖書を持ち出したのは自分だと打ち明けました。パボルは弟なので、兄には読み終わったら返して欲しいとしか言えませんでした。

ある日、ピーターはマルコ 16:16 にある「信じて洗礼（バプテスマ）を受ける者は救われる」というイエス様の御言葉を読みました。彼は一度聖書を閉じ、再び開きました。すると同じ聖句が彼を見つめ返すのです。「信じてバプテスマを受ける者は救われる」ピーターは、3回聖書を閉じて開き直しましたが、3回ともまた同じ聖句を開いてしまうのです。ピーターは聖書を手に取って弟の家に行きました。パボルは2人の友人と即興の演奏をしていました。

「お願いだから来て僕にバプテスマを授けてほしい。」ピーターは言いました。

彼はバプテスマについて何も知りませんでした。彼はただイエス様に従い、バプテスマを受けたかったのです。

「兄さん、僕にバプテスマを授けて欲しいのかい？」パボルが聞くと、

「そうだよ。ここにはっきりと、信じてバプテスマを受ける者は救われると書いてあるんだ」とピーターは言いました。

パボルはためらいましたがピーターの決意は固く、2人の兄弟と彼らの2人の友人はロマ人居留地の外にある1メートルほどの深さの川に入り、互いにバプテスマを授けあいました。彼らは神様に罪を告白し、赦しを請いました。その後、彼らは信じられない程の喜びを体験し、天国について語り合い、互いにバプテスマを喜び祝いました。

その日以降、この4人の男性は汚い言葉も使わなくなり、煙草もお酒もやめました。近隣住民たちは驚きました。以前は彼らがお酒に酔うと、周りの住人たちは彼らを恐れ逃げていたのです。

彼ら4人は毎日聖書を一緒に勉強することにしました。夜に始めると、朝まで聖書を読んでいるということもありました。他の人々も聖書研究に参加するようになり、50人、100人もの人々がピーターの家のリビングやキッチンにぎっしり集まるほどでした。

ある晩の聖書研究中、「イエスは週の初めの日の朝早く復活して」と言う言葉で始まるマルコ 16:9 に、ピーターの目が留まりました。ピーターはイエス様とイエス様に従う人々が7日目の土曜日に休んだということを思い出し、何故彼の居留地に訪ねてくる宣教師たちは日曜日に礼拝をしているのかと疑問に思いました。

宣教師の中で、ピーターの疑問に答えられる人は1人もいませんでした。

聖書研究のグループは聖書を読み続け、4つ目の十戒を学び、安息日を守り始めました。

ある日ピーターは、ロマ人の親戚を訪ねて来たという人に、初めて会ったにも関わらず日曜礼拝についての疑問を投げかけてみました。するとそのジョシフという名の方は、たまたまセブンスデー・アドベンチストで、聖書の安息日を守っている教会があるということを教えてくれました。ピーターの招待を受け、ジョシフは聖書研究会でお話をしました。その後、ジョシフはピーターと彼の友人たちをその地域にあるアドベンチスト教会に連れて行きました。ピーターはおごそかに行われていたアドベンチストの聖餐式に特に感動を覚えました。

ピーターのリビングルームは、安息日の礼拝やその他のプログラムを行うアドベンチスト・ハウスチャーチ（家の教会）となりました。ピーターと彼の弟、そして聖書研究グループのうち24名が2015年にバプテスマを受け、アドベンチスト教会に加わりました。その後2年で、もう10名のバプテスマがありました。そして2018年、居留地のはずれにアドベンチスト教会が建てられ、毎週の安息日には100人もの人々が出席しています。この教会こそ、神様がピーターのリビングルームを通してゼロから建てられた教会なのです。

今期の13回献金の一部は、スロバキアのラクシーにある教会の、ぜい弱な子どもを助ける費用として用いられます。このプロジェクトをはじめ、ブルガリア、ドイツ、スペインにおける今期プロジェクトのための、皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

・チルドレン・ミッション・マガジンで、ピーターのハウスチャーチによって人生が変えられたという 12 歳の男の子のお話を読むことができます。

・ピーターをユーチューブで視聴できます：

bit.ly/Peter-Mizigar.

・画像のダウンロードはこちら：

フェイスブック (bit.ly/fb-mq) または

ADAMS データバンク (bit.ly/Challenging-the-Sabbath)

・13 回献金プロジェクトの画像ダウンロード：

bit.ly/eud-2020-projects.